



様式1 (主な取組)

活動指標名	配置人数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	49名	49名	50名	50名	54名	49名	100.0%	249,971	順調	県立高等学校60校、特別支援学校16校に54名のALTを配置（訪問含む）し、生徒の外国語コミュニケーション能力の向上と地域レベルの国際交流の推進を図った。
活動指標名	-				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	-	-				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										ALTの配置により、外国語教育の充実・改善を図ると共に、ALTが地域の行事に参加するなど地域レベルの交流を行ったことにより、諸外国との相互理解を深めることができた。
活動指標名	-				R2年度					活動指標の配置計画は、令和2年度の計画値49名に対し実績値54名となり、順調である。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	-	-				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立中学校へのALTの増員を計画する。</li> <li>・ 県PAと教育センター勤務ALTによる学校訪問を継続実施し、ALTの授業力向上を図る。新規招致ALTや英語教諭が活用しやすいように、教材や指導案をまとめ、教育センターのホームページで公開する計画を進める。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1名のALTを増員した。また、県独自に雇用していた3名のFLT（外国人外国語指導助手）をALTに移行した。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症拡大により、学校訪問を実施することができなかったが、ALTが授業で活用する教材や指導案を収集し、県立総合教育センターのホームページで公開することができた。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>多くの学校でALTの活用が図られた結果、ALTの増員を求める学校が増加している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>「生徒の英語力向上の推進について(通知)」を受け手、「生徒の英語力向上推進プラン」を踏まえた各都道府県の目標設定および達成状況を公表している。沖縄県として、生徒の英語力向上に資する目標設定をし、達成状況は把握している。特にパフォーマンステスト実施回数が目標を達成できていないため、ALTのさらなる活用を含め各研修で周知している。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ALTのニーズの高まりに答えられるよう十分な配置人数の確保と、授業内容の充実やALTの授業力向上など活用体制の確立を図る必要がある。



### 4 取組の改善案 (Action)

- パフォーマンステスト実施回数目標達成するために、評価ルーブリックに基づいた適切な評価方法について研修を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	
主な取組	英検合格推進モデル校の設置(英語立県沖縄推進戦略事業)			
対応する主な課題	世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
国際的な視野を持ち、国際社会において主体的に行動できる人材を育成するため、県立高等学校(全日制・定時制)の全60校の2年生を対象に英検IBAテストを実施し、生徒の英語力向上を図る。		30校 設置校数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					
		英検合格者増加に向けたモデル校の設置・検証				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 英語立県沖縄推進戦略事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度: 県立高校60校の2年生13,033名を対象に英検IBAテストを実施。	
県単等	委託	6,893	7,165	7,258	6,629	6,634	6,930	県単等	R3年度: 県立高校60校の2年生を対象に英検IBAテストを実施する。全実施校対象に外部専門家によるテスト結果のフィードバックを行う。	

  

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度:	
									R3年度:	

様式1(主な取組)

活動指標名	設置校数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	35校	59校	60校	60校	60校	30校	100.0%	6,634	順調	平成30年度の新規計画以降、全日制・定時制の全県立高校60校の2年生に対し、英検IBAテストを実施している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により全実施校対象のフィードバック説明会を中止した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										計画値30校に対して、令和元年度の英検IBAテスト実施校は、全県立高校60校であり、順調に進捗している。令和元年度まで継続的に実施したフィードバック説明会における外部専門家による分析説明及び研究協議により、生徒の技能別傾向等に関する理解を深め、英語指導の充実につながっている。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<p>・高校2年生で受験する英検IBAの成績と高校3年生時点において実施しているCEFRに準拠した生徒の英語力評価を関連づけた取組の手法を検討する。</p>						<p>・過去の英検IBAの成績と高校3年生時点における英語力の推移を学校ごとに整理分析を行った。次回実施するフィードバック説明会で学校に提供し、各学校におけるテスト結果の活用を図る。</p>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
・大学入試に活用できる英語資格・検定試験が複数あることに伴い、学校ごとに採用する資格・検定試験が多様化している。	・2001年に欧州評議会が発表したCEFRが外国語の学習、教授、評価のための参照枠として日本における認知度が高まり、また、英検を含めた各資格・検定試験との対照も可能となった。 ・大学入試における英語資格・検定試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の令和2年度からの導入が見送られることになった。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・新たな国際標準規格CEFRが普及し、CEFRに対応する英語資格・検定試験が多様化することにより、英検以外の資格・検定試験の受験者数増加が予想されるため、英語教育の充実及び実践的なコミュニケーション能力の向上を図る上で、CEFRによる英語能力の評価も取り込んだ取組のあり方を検討する必要がある。
- ・また、令和4年度の新学習指導要領全面実施に向けて学校においてはパフォーマンステストによる英語4技能の総合的な評価のあり方を確立する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・英検IBAのテストと学校ごとに実施するパフォーマンステストの結果から生徒の英語力の測定精度を向上させる方法についてフィードバック説明会等での共有を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	
主な取組	小中高大が連携した英語教育研究(英語立県沖縄推進戦略事業)			
対応する主な課題	世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
英語小中高大連携委員会の取組において、他の模範となる優れた授業力を備えた教員として「英語授業マイスター」の認定・活用、校種間連携を目的として「英語担当中高連携研修会」、中高での英語授業改善及び生徒の英語力向上につなげるために「英語能力判定テスト」等を実施する。		6回				
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】				
		小中高大連携実行委員会の開催、英語教育の課題についての研究を実施				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 英語立県沖縄推進戦略事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度： 中高連携研修会、英語授業マイスターと外部専門家によるシンポジウムをオンラインで実施。英語能力判定テストを全県立学校2年生対象で実施。	
県単等	直接実施	3,150	2,559	2,740	2,717	250	1,325	県単等	R3年度： 「英語授業マイスター発掘プロジェクト」「英語担当中高連携研修会」「英語能力判定テスト」を実施する。	

  

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度：	
									R3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	実行委員会の開催数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	5回	4回	8回	6回	6回	6回	100.0%	250	順調	小中高大英語教員の連携による授業改善の取組や児童・生徒の英語力向上を目的に小中高大連携委員の参加による中高連携研修会(6地区)や英語授業マイスターとのオンラインシンポジウムを開催。英語能力判定テストを全県立学校2年生対象で実施。	
活動指標名					R2年度						
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から委員会についてはメール会議を実施した。中高連携研修会を全地区でオンライン実施、英語授業マイスターによるオンラインシンポジウムを開催した。今年度から小学校で新学習指導要領が実施され、中学校、高等学校も実施が目前に迫る中、コロナ禍でも校種間での連携を進めるための取組を実施することができた。
活動指標名					R2年度						
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和2年度の取組改善案								反映状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の委員体制を維持できるよう現委員と調整を進めながら、義務教育課英語担当主事と連携し、中学校からの委員就任を図る。</li> <li>県立学校長研修会、中高連携研修会等の機会に「英語授業マイスター発掘プロジェクト」の周知を行い、応募者数確保を図る。</li> <li>実行委員会において新学習指導要領や大学入試改革についても協議する。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、中学校からの委員も加わり、小中高大の校種間連携を強化するための体制が整った。</li> <li>コロナ禍で英語授業マイスターの新規募集はできなかったが、オンラインシンポジウムにおいて過去に認定された英語授業マイスターを活用し、取組の意義についての周知や理解を図った。</li> <li>委員の協力の下、中高連携研修会等の機会を活用して新学習指導要領に準拠した英語授業のあり方等について協議した。</li> </ul>			





## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### 内部要因

・英語教育充実のための全校種横断的な取組であること、委員会・研修・授業観察等を実施するため活動量が多いことなどから、委員体制を継続的に充実させておくことが重要である。

##### 外部環境の変化

- ・新学習指導要領が小学校令和2年、中学校令和3年、高校令和4年に実施され、学習指導要領の示す英語教育の実現にむけた取組を各校種において行っている。
- ・大学入試における英語資格・検定試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の令和2年度からの導入が見送られた。
- ・コロナ禍で多人数が参加する合同研修等の実施が難しい。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・コロナ禍における校種間連携の強化、生徒の英語力向上のための効果的な研修の持ち方を工夫する必要がある。
- ・新学習指導要領実施に関する校種ごとの課題や校種間連携のあり方、また、今後の大学入試改革を踏まえた高大接続のあり方等について委員会で協議を行い、取組に反映させる必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ICT活用によるコロナ禍に対応した研修の持ち方を工夫する。
- ・実行委員会や研修会等において、沖縄県英語教育改善プランの目標値達成に向けて、英語能力判定テストと各学校でのパフォーマンステストの結果を活用した生徒の英語力評価のあり方について研究協議を行う。



様式1(主な取組)

活動指標名					R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
留学派遣者数					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	14,902	未着手	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年3月、派遣生の安心・安全の観点より、事業(R元年度派遣)を中止し、全派遣生の帰国。さらに、R2年度は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より事業を中止。		
	94人	99人	85人	87人	0人	100人	0.0%					
活動指標名					R2年度							
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			14,902	未着手	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R2年度							
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	14,902	未着手			活動指標の「留学派遣者数」が計画値に達しなかった理由は、R2年度は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より事業を中止したため。
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和2年度の取組改善案						反映状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期研修派遣を通して、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に、事前・事後研修等で留学の応募を勧め、意識の高揚を図る。</li> <li>・外務省等からの情報など国の動向を注視し、派遣先の状況把握に努め、派遣生の安全確保のための体制を維持する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より短期海外研修事業も中止したため、取組改善を反映させることができなかった。</li> <li>・外務省、厚労省等からの情報(新型コロナの感染状況等)に注視するとともに、委託先と連携を密に派遣先の状況を把握し、派遣生の安全確保に努め、非常事態の中、無事に派遣生全員を帰国。</li> </ul>						



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・約1年間の海外留学において、派遣生は異文化への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症の世界的流行 (感染症の世界的拡大)</li><li>・国際情勢の変化等による治安上の問題</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生は海外での留学生活に必要な異文化への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに不安があるため、短期研修と連携したステップアップシステムの構築が必要である。
- ・外務省等の情報入手を迅速に行い、派遣先と連携し、派遣生の安全確保に向けた体制の維持。



### 4 取組の改善案 (Action)

- ・短期研修派遣を通して、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に、事前・事後研修等で留学の応募を勧め、意識の高揚を図る。



様式1(主な取組)

活動指標名		派遣数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要			
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B							
		50人	50人	40人	40人	0人	50人	0%	0	未着手	アメリカの州立大学へR2年7月から8月に約3週間、高校生40人を派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験する研修を実施する予定であった。			
活動指標名						R2年度								
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B							
活動指標名						R2年度								
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B							
<p>(2)これまでの改善案の反映状況</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%;">令和2年度の取組改善案</th> <th style="width:50%;">反映状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した実践的な英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての研修を引き続き実施する。</li> <li>・実践的な語学力を測る英作文試験や、積極性、コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築する。</li> <li>・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を徹底する。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、事業を中止した。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>											令和2年度の取組改善案	反映状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した実践的な英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての研修を引き続き実施する。</li> <li>・実践的な語学力を測る英作文試験や、積極性、コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築する。</li> <li>・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、事業を中止した。</li> </ul>
令和2年度の取組改善案	反映状況													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した実践的な英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての研修を引き続き実施する。</li> <li>・実践的な語学力を測る英作文試験や、積極性、コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築する。</li> <li>・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、事業を中止した。</li> </ul>													



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### 内部要因

- ・現地研修において求められる英語力を伸長するため、事前研修においても全て英語での研修実施が必要である。また、異文化理解について現地コーディネーター等を講師とした研修も継続する。
- ・研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、英語力の高い生徒を選考する必要がある。

##### 外部環境の変化

- ・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意する必要がある。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・事前研修等において、外国語講師による語学研修の充実、現地コーディネーターや前年度派遣生・引率教諭による体験談から生活習慣や異文化理解等を学ばせる必要がある。
- ・実践的な外国語のコミュニケーション能力を測るため、英作文試験や面接試験において語学力、積極性を計る選考試験を実施する必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先大学および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した実践的な英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての研修を実施。
- ・実践的な語学力を測る英作文試験や、積極性、コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築。
- ・事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン(オンデマンド)研修等を実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	
主な取組	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			
対応する主な課題	世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、海外での研究機関等の訪問、現地高校・大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る。		25人派遣数				
実施主体	県	県内高校の生徒を外国の高等学校等へ派遣し、理科系の科目を中心に受講させる				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	12,566	12,795	10,827	6,032	-	14,599	一括交付金(ソフト)	R2年度： カナダへ11日間、高校生25人を派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のため、事業を中止した。 R3年度： オーストラリア・ビクトリア州へ11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等授業参加などを実施する。	
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度：	
									R3年度：	



様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25人	25人	20人	0人	0人	25人	0%	0	未着手	カナダ・ブリティッシュコロンビア州へR3年3月に11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る研修を実施する予定であった。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修をより深い学びへと繋げるため、事前研修で探求テーマに取り組む「サイエンスイマージョン研修」を引き続き実施する。</li> <li>・実践的な語学力を高めるため、生徒選考時における英語面接試験内容および事前研修での語学研修方法を構築する。</li> <li>・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を徹底する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、事業を中止した。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・現地での研修をより深めるために、事前研修で取り組んだ探求テーマについて現地高校生と意見交換する場を設定した。また、事前研修における英語での授業は、リスニング力および語彙力の向上に必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意する必要がある。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・派遣生徒の選考および事前研修において、生徒に探求テーマを構築させ、英語で意見交換できるコミュニケーション能力を育成する必要がある。
- ・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先大学および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、事前研修で探求テーマに取り組む「サイエンスイマージョン研修」を実施。
- ・実践的な語学力を高めるため、生徒選考時における英語面接試験内容および事前研修での語学研修方法を構築。
- ・事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン(オンデマンド)研修等を実施する。



様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	20人	0人	0人	20人	0%	0	未着手	中国・上海へR3年2月から3月に13日間、高校生20人を派遣し異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国語の習得および中国文化への興味関心を高める研修を実施する予定であった。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修において、中国の文化や語学力の向上を図る研修内容を構築し、現地研修後には語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。</li> <li>・受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を徹底する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、事業を中止した。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現地での授業参加や交流等をより高いレベルで推進するため、事前研修における語学力および積極性を高める取り組みが必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意する必要がある。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事前研修等において、語学や異文化理解に関する研修内容を実施するとともに、現地大学での語学研修の充実を図る必要がある。</li><li>・ 外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。</li></ul>
---



### 4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事前研修において、中国の文化や語学力の向上を図る研修内容を構築し、現地研修後には語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。</li><li>・ 事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン(オンデマンド)研修等を実施する。</li></ul>
---

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	
主な取組	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト			
対応する主な課題	世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄とハワイ双方向において絆を深め、先の大戦によって焦土化した双方の悲惨な状態からの復興と平和、将来の展望等について、共に学び考える機会を設けることで、自国と他国の歴史や文化を真に尊重出来る、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成を図る。		25人派遣数 約25人受入数				
実施主体	県	沖縄県高校生の派遣及びハワイ州高校生の受け入れによる交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度： ハワイ州高校生25名を受け入れる予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。 R3年度： ハワイ州高校生を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施する。	
県単等	直接実施	416	411	496	631	536	429	県単等		
予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度： ハワイ州へ高校生25名を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。 R3年度： ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校報恩、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施する。	
一括交付金(ソフト)	委託	9,993	9,920	9,771	9,771	9,951	10,681	一括交付金(ソフト)		

様式1(主な取組)

活動指標名	受入数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	12人	10人	13人	16人	0人	25人	0.0%	10,487	未着手	ハワイ州高校生の受け入れ及び沖縄高校生のハワイ州への派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。  進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果  ハワイ州高校生の受け入れ及び沖縄高校生のハワイ州への派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となったため、進捗状況は事業全体で「未着手」となった。
活動指標名	派遣数				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25人	25人	25人	25人	0人	25人	0.0%			
活動指標名	-				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	-	-				

(2)これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れについては、県内研修の際に沖縄の本研修で派遣される生徒が行う英語でのガイドをさらに拡充する。</li> <li>ハワイ沖縄連合会、委託業者、現地スタッフとの連携強化を図り、受入人数の増加を目指す。</li> <li>派遣については、事前研修で持続可能な観光について学び、本研修で実践例を見せることで生徒の学びに資するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大のため、事業は中止となったが、ハワイ沖縄連合会主催のオンラインラジオ番組に教育長挨拶を提供し、事業の継続に向けて連携することができた。</li> </ul>



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・ハワイ州から来沖する高校生の日本語力に差異がある。</li><li>・観光立県を標榜する本件の観光産業を担う人材の育成を目的の1つとしていることから、関連するプログラムの拡充が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・為替の変動によって、ハワイ州高校生の参加に影響が出ることがある。 (参考) H24:21名 H25:12名 H26:16名 H27:15名 H28:12名 H29:10名 H30:13名 H31:16名</li><li>・新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が出来ない状況がある。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ハワイ州高校生に沖縄の文化や歴史をより理解してもらうため、訪問や見学の際に、文化体験や語り部による平和学習を英語で行うなどのプログラムの改善をさらにすすめる必要がある。
- ・派遣する際に座学だけでなく実地研修を充実させるなど、観光産業に関するプログラムを拡充する必要がある。



### 4 取組の改善案 (Action)

- ・ハワイ沖縄連合会、委託業者との連携強化を図り事前オンライン交流を導入するなどし、受入人数の増加を目指す。
- ・派遣については、事前研修にオンラインを取り入れハワイの観光産業関係者より講話等を行い、現地では実地研修を主とするよう工夫する。
- ・新型コロナウイルス感染症等の影響で受入や派遣が出来ない場合は、代替研修としてオンライン研修等を実施する。





様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	20人	20人	0人	20人	0.0%	0	未着手	新型コロナウイルス感染症による事業中止。
活動指標名					R2年度					
実績値										
										新型コロナウイルス感染症による事業中止のため、生徒を派遣することができなかった。
活動指標名					R2年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げると共に語学研修の内容を検討し、本研修の充実に努める。</li> <li>・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。</li> <li>・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症のため事業を中止した。</li> </ul>		



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。</li><li>・ 現地交流校との受入日程調整が必要となる。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新型コロナウイルス感染症を注視し、本研修の派遣時期を検討する。</li><li>・ 海外派遣が困難な場合、オンライン等の交流や文化研修などの代替研修を行う。</li></ul>
--



### 4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。</li><li>・ これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。</li></ul>
---

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	
主な取組	芸術文化国際交流(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			
対応する主な課題	世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
本県の高校生をドイツ等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		54人 派遣人数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【098-866-2731】					
		高校生を海外へ派遣し、文化交流を実施				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度： 新型コロナウイルス感染症のため、事業中止。	
一括交付金(ソフト)	委託	24,383	25,927	25,234	30,222	0	30,347	一括交付金(ソフト)	R3年度： 「美術・工芸」、「音楽」分野をドイツ、「郷土芸能」分野で活躍する高校生をアメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施予定。	
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度：	
									R3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	60人	54人	50人	44人	0人	54人	0.0%	0	未着手	新型コロナウイルス感染症による事業中止。
活動指標名					R2年度					
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R2年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げるとともに実用的な語学研修を実施し、現地での交流を充実させる。</li> <li>・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。</li> <li>・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症のため事業を中止した。</li> </ul>		



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### 内部要因

・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

##### 外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。

・現地交流校との受入日程調整が必要となる。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・新型コロナウイルス感染症状況を注視し、本研修の派遣時期を検討する。
- ・海外派遣が困難な場合、オンデマンド等の交流や県内での文化研修などの代替研修を行う。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。
- ・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。